

日本の地域間所得格差

データの出典等については、「ジニ係数」をまとめた表の備考欄を参照のこと

ジニ係数は、所得分布の不平等度を測る最も一般的な指標である。本データは、戦前・戦時・戦後（1930～75年）における日本の都道府県所得に関するジニ係数の計算方法とその結果をとりまとめたものである。

ジニ係数の範囲は0から1で、係数の値が0に近いほど格差が少ない状態、1に近いほど格差が大きい状態であることを意味する。0のときには、すべての者が同一の所得を得ている状態を示す。ジニ係数を利用して所得以外の不平等度を測ることもでき、その応用範囲はかなり広い。

なお、総務省統計局は5年ごとに消費実態調査を行い、ジニ係数を発表している。参考までに、下記のサイトを紹介しておこう。

総務省統計局「全国消費実態調査トピックス」

<http://www.stat.go.jp/data/zensho/topics/1999-1.htm>